



学校と学童保育

——子どもの生活を守るために

編集部



今回の特集テーマである「学校と学童保育の連携・協力」について、本誌の読者モニターの指導員の方々に協力していただき、アンケートを行いました。

内容は、「子どもが円滑に日々の生活をおくれるように情報交換・共有していること・その際に配慮していること」「子どもの安全を守るために、連携・協力していること（登下校時、ケガ・病気への対応、災害時など）」「遊び・生活の場を広げるために協力していること」「課題だと感じていること」「コロナ禍のなかでの連携・協力」についてです（自由記述）。

回答の一部を紹介して、学校と学童保育の連携・協力の必要性とその大切さをあらためて考えます。記述内の「◆」は「学童保育から知らせていること」、「◇」は「学校から知らされていること」です。

「情報共有についての基本的なこと」

◆四月はじめに、在籍児童の名簿を届けて、連携・協力をお願いしたいにあいさつにうかがっています。

◆春休みの様子、新学期がはじまつてからの様子などを情報共有している。

◆年度当初に、常勤指導員と保護者会会長が校長先生にあいさつに



うかがう。その際、学校施設の使用について、確認。

◆年度当初に主任指導員があいさつに行き、連携・協力の担当（窓口）を確認している。

◆学童保育の月々のおたより・正規指導員の連絡先・学童保育での行事をお知らせする。

◆学童保育の開所時間・年間計画などをお知らせしています。

◆市・学校・学童保育で一年ごとに校庭、体育館などの使用を確認し、契約書に署名する。

つづきは本誌をらんくください

